

令和 3 年 6 月 10 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H03765

研究課題名(和文)「学び続ける教員」を支えるアクティブ・ラーニング型教員研修プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of an active learning type in-service training program for teachers as continuous learners

研究代表者

宮谷 真人 (Miyatani, Makoto)

広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授

研究者番号：90200188

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,200,000円

研究成果の概要(和文)：アクティブ・ラーニング(AL)を取り入れた教員研修を展開している国内外の先進事例の調査や、国内の教員を対象とする実態調査、ニーズ調査を行い、AL型教員研修の理論的基礎を構築した。また、国内外の教員研修の成果と課題を踏まえ、AL型教員研修プログラムの開発に取り組んだ。AL型教員研修における教員の学びの分析モデルを設定し、教員研修の担当者自身が研修を企画・開発・実施・改善するためのルーブリックを作成した上で、学校マネジメントに関する研修と教科指導に関わる研修のプログラムを開発し、附属学校、連携協力校、広島大学教職大学院において実践した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教員研修におけるアクティブ・ラーニングとは何かの定義を明確化し、理論的基礎を構築した。また、教員育成指標となるスタンダード・ルーブリックを開発し、それらに基づいたアクティブ・ラーニング型教員研修プログラムの立案と効果検証を行ったことは、現代社会において強く求められている教員の力量と「学び続ける教員」の育成促進、さらには教育委員会と大学等が協働で策定する教員育成指標・研修計画の全国的な整備に繋がる。

研究成果の概要(英文)：Establishing a theoretical foundation for active learning (AL)-type teacher in-service training by conducting surveys of advanced cases in Japan and overseas that are developing teacher training incorporating AL, and fact-finding/needs surveys targeting domestic teachers. In addition, based on the results and issues of teacher training in Japan and overseas, we worked on the development of an AL-type in service teacher training program. At first, we made up an analysis model of teacher learning in AL-type in-service teacher training. and created a rubric for the person in charge to plan, develop, implement and improve the program. In the next step, we developed programs for training on school management, and for training on subject guidance. and put these programs into practice at affiliated schools, collaborative schools, and the Graduate School for Teacher Education (Professional Development Program for Teachers and School Leaders) of Hiroshima University.

研究分野：教育学

キーワード：教師教育 アクティブ・ラーニング 教員研修

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 国内の動向

教員の力量を向上させるとともに、「学び続ける教員」の育成が社会から求められている。中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(2012)においても、学び続ける教員を支援するための教員研修の充実を図る仕組みを構築する必要性が指摘されている。教員自らが課題の発見・解決に向けて主体的・協働的な学び(AL)を促進することが求められ、教員研修においてもAL型研修への転換が課題として示されている(中教審教員養成部会(答申素案)(2015))。ALの手法はすでに小学校・中学校・高等学校で実践され効果を上げている(小林、2015)。大学においても近年取り入れられ、実践されている(松下、2015)。しかし、教員研修においてはALの手法が十分に取り入れられているとはいえない状況がある。

このような中、中教審教員養成部会(答申素案)(2015)では、教育委員会と大学等が協働で策定する教員育成指標・研修計画の全国的な整備が求められている。以上の状況に鑑み、教員育成指標となるスタンダード・ルーブリックを開発し、それらに基づいたAL型教員研修プログラムの立案や効果検証を行うことは喫緊の課題であるといえる。

(2) 国外の動向

一方、国外の動向に目を向けると、教職の高度化を促すために教員研修の改善・充実が盛んに行われている。例えばイギリスでは先進的な取り組みが行われており、特にスコットランドにおいてはGTC(General Teaching Council)によって、スタンダードに基づく教員の資質向上施策がとられ、スタンダードを用いた現職教育が行われ、教職の高度化が進められている(www.gtc.org.uk)。またアメリカにおいては、教員研修を専門的に運営する機関が学校や教育委員会と連携して教員研修プログラムを開発・運営し、教職の高度化を促す取り組みをしている(Scarsdale Teachers Institute, 2014)。そして、オーストラリアでは、プログラム評価の研究が盛んであり、教員研修プログラムの効果検証および改善方策に関する知見を得るための示唆に富んでいる(St. Leger, 2007)。

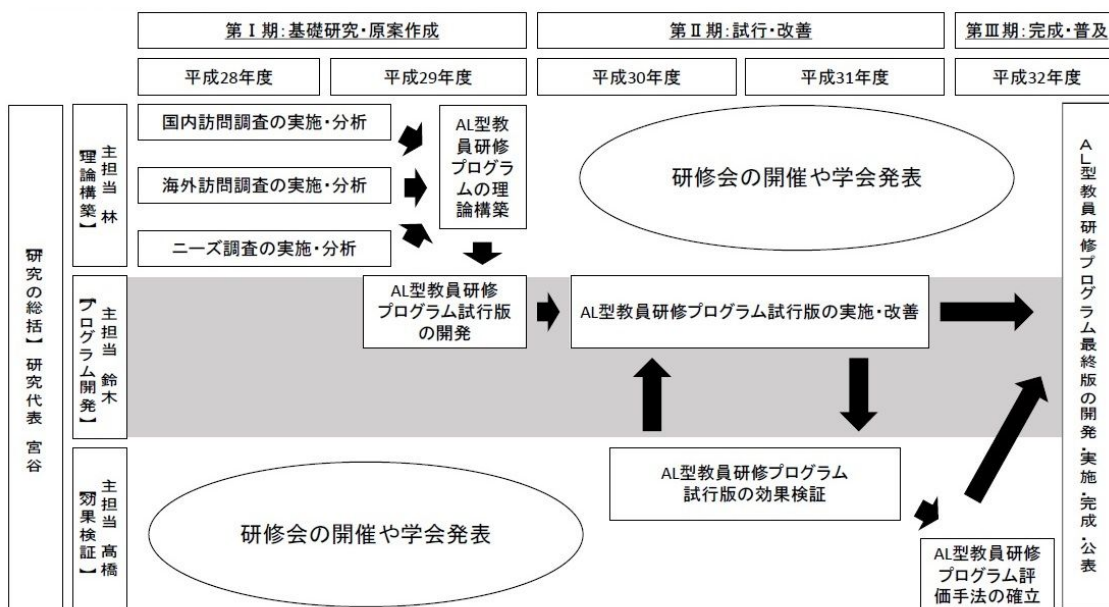
我が国においてAL型の研修を導入するのであれば、国外で先駆的に取り組まれている、スタンダードを取り入れた教員研修や学校や教育委員会と連携した教員研修プログラムの開発・運用、そしてそれらの効果検証に関する様々な知見を取り入れる必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、初任期以外の教員にも対象を広げ、継続的に「学び続ける教員」を支えるAL型教員研修プログラムおよび評価指標としてのスタンダード・ルーブリックを開発することとした。本研究により、教職生活全体を通して「学び続ける教員」を支える教員研修の方法が示され、教員研修を通じた専門職としての教職の高度化に貢献することができる。

3. 研究の方法

研究の全体像は、おおむね以下のとおりであった。



(1) 第 期:基礎研究・原案作成

まず、国内外への訪問調査やニーズ調査で得た結果を以下の観点で分析した。

国内外への訪問調査では、教員研修のゴール、教員研修プログラムの開発方法、教員研修の内容・実施時間・方法、教員研修プログラム評価の方法、学校や教員へのニーズ調査の方法、調査結果を教員研修プログラム開発に生かす方法、の6観点から分析した。また、ニーズ調査では、教員研修プログラムに求められる内容、「学び続ける教員」として身につけるべき資質能力等、教員研修プログラムに必要な要素、の2観点から分析した。これらの分析に基づいて、AL型教員研修プログラム(含スタンダード・ルーブリック)の基礎的理論の構築を行った。

構築した基礎的理論に基づき、AL型教員研修プログラムに必要な要素を明らかにし、課題の発見・解決に向けて主体的・協働的な学習を促すAL型教員研修プログラム(目的・内容・実施時間・方法・教材・教具・コスト等)とスタンダード・ルーブリック(教員が自らの力量形成を把握するための評価指標)の試行版を開発した。

(2) 第 期：試行・改善

AL型教員研修プログラム(含スタンダード・ルーブリック)の試行版を、校内研修、エキスパート研修、大学院派遣研修(教職大学院)等における教員研修で実施した。海外のプログラム評価方法に関する調査結果を加味して、教員研修のプログラム評価の方法を試作した。そしてAL型教員研修プログラムの試行版の効果为目的・内容・実施時間・方法・教材・教具・コスト・受講者の成長等の観点から質的・量的な調査研究によって検証し、プログラムの改善に資する情報を収集した。

(3) 第 期：完成・普及

開発したAL型教員研修プログラムの理論と実施方法をリーフレット等によって公表し、広める。また文字媒体だけでなく、広島大学大学院教育学研究科と東広島市教育委員会との連携事業である連携教育フォーラムでワークショップ等を開催し、普及に努める計画であった。

4. 研究成果

(1) 児童生徒の授業形態としてアクティブ・ラーニングという言葉は一般的に使われているが、教員研修におけるアクティブ・ラーニングとは何か、その定義も十分とはいえない。そこで本研究では、まずAL型教員研修の定義を行うことから始め、定義に基づいてこれまでの教員研修を検討し、本研究でいうところのAL型教員研修プログラムの開発を行うこととした。

本研究においては、現職教員を対象としたアクティブ・ラーニングを次のように定義した。

「教員を生涯学び続ける学習者＝学び続ける存在ととらえ、学習者である教員の学びが深化することを目的とし、教員個人が自己の目的を達成するために、教員自身が主体的に深く学んだり、教員集団で協働的に深く学んだりすることを通して、新たな理論の創造や教員に求められる知識・技能の共有をすることができるなど、教員個人や教員集団の学びが能動的となっている学びの姿そのものを指す。」

ここから、AL型研修プログラムの目的を、教員個人の学びの深化におき、方法として教員個人の主体的な学びと教員集団の協働的な学びをあげ、結果として身についた力ではなく、学びが能動的となっている姿、プロセスそのものが生じているかどうかを評価指標とすることとした。

(2) 本研究では、先進事例としてオーストラリア・メルボルン大学評価プログラムセンター内の国際教師教育拠点(iTEERH)を訪問し、教員評価指標、フォローアップ型教員研修について情報収集を行った。また、教員研修権を有する教育委員会を対象としてAL型教員研修プログラムに必要な要素を明らかにするための質問紙調査や訪問調査を行った。

これらの調査から分かったことは大きく3点である。1点目は、教職員の成長の阻害要因として、「業務過多」があることである。2点目は、管理職の感情的、対話的、寛容的なマネジメント能力が「学び続ける教員」を育成するために重要な視点だということである。3点目は、新たな教育課題への対応として研修が行われる場合、その研修を組織・運営する指導者層(指導主事等)を対象とした研修が、重要であるにもかかわらず半数程度にとどまっていることである。

1点目2点目から、マネジメント層を対象としたAL型教員研修プログラムの必要性が明らかになった。3点目から、教員研修の指導者層(指導主事等)を対象としたAL型教員研修プログラムを開発する必要性が明らかになった。そこで、本研究においては、対象をマネジメント層と研修の指導者層(指導主事等)とに分けて、AL型教員研修プログラムを開発することにした。

(3) マネジメント層を対象としたAL型教員研修プログラムとして、アクティブ・ラーニングとしてのアクションリサーチによるマネジメント力の育成とともに、理想の教師像の追究、協働や同僚性を基軸とする学校の組織文化の醸成力の育成が重要であることが明らかになった。また、研修の指導者層(指導主事等)を対象としたAL型教員研修プログラムでは、まず研修と個々人の学びとを架橋する「ラーニング・ブリッジング」や、教員の研修に対する「エンゲージメント」や、教師効力感への影響をみる「教員の学びの分析モデル」を設定した。それを基に、教員研修の指導者が、自分でAL型教員研修プログラムを実施・改善できるようにするための、自己チェック用のルーブリック案を開発した。

(4) 最終年度には、これらの成果を基に、教員研修の場で実施・検証・評価・改善する予定であったが、COVID-19により、研修が大きく変更されたため、個々の教員が関わっている教員研修において、可能な範囲で実施・検証・評価・改善を行い、その成果をまとめた「成果報告書」を作成し、全国の教育委員会、教職大学院に公表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 林孝・米沢崇・藤井瞳	4. 巻 65
2. 論文標題 学校内外において連携・協働する「職員室文化」に関する一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育学研究紀要（CD-ROM版）	6. 最初と最後の頁 102-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 佐々木哲夫・西本正頼・吉賀忠雄・亀岡圭太	4. 巻 65
2. 論文標題 学び続ける教員の育成に関する一考察(3)-創造的な組織文化の醸成に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育学研究紀要（CD-ROM版）	6. 最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 曾余田浩史・金川舞貴子・大空秀文・長沼正義・佐々木優	4. 巻 65
2. 論文標題 学校マネジメントの力量を形成するアクティブ・ラーニングとしてのアクションリサーチに関する考察（4）「スクールリーダー教育者」の専門性開発の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育学研究紀要（CD-ROM版）	6. 最初と最後の頁 327-338
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山中真悟・木下博義	4. 巻 8
2. 論文標題 高等学校物理におけるSTEM教育に関する研究 STEMの要素間関係理解に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福山市立大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 85-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15096/fcu_education.08.08	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hitoshi TAKAHASHI, Takashi YONEZAWA, Kazuki OSEDO, Hiroyoshi KINOSHITA, Keita KAMEOKA, Yuka NAKAI, and Yumiko SUZUKI	4. 巻 2
2. 論文標題 Research on in-service training for teachers as continuous learners (2) Content of and measures related to in-service training	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Professional Development for Teachers and School Leaders	6. 最初と最後の頁 9-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木哲夫・西本正頼・吉賀忠雄・田中節子・亀岡圭太	4. 巻 64
2. 論文標題 学び続ける教員の育成に関する一考察(2)-育成を阻害する要因の克服に向けて-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育学研究紀要 (CD-ROM版)	6. 最初と最後の頁 585-596
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曾余田浩史・梶山ちひろ・長沼正義・大空秀文	4. 巻 64
2. 論文標題 学校マネジメントの力量を形成するアクティブ・ラーニングとしてのアクションリサーチに関する考察 (3) 「目標管理」と連動した 学校づくり 理論づくり 自分づくり	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育学研究紀要 (CD-ROM版)	6. 最初と最後の頁 174-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米沢崇・中井悠加	4. 巻 25
2. 論文標題 教員研修における企画・運営力の向上を目指した教師教育者育成プログラムモデルの開発 - 大学院授業科目での試行を通して -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 119-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋 均・米沢 崇・鈴木由美子・大後戸一樹・木下博義・大里 剛・中井悠加	4. 巻 11
2. 論文標題 「学び続ける教員」を育成するための教員研修に関する調査研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学習開発学研究	6. 最初と最後の頁 135-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/45288	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沖野清治・佐々木哲夫・西本正頼・大里剛	4. 巻 63
2. 論文標題 学び続ける教員の育成に関する一考察 - 育成を阻害する要因分析を通して -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 248-259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曾余田浩史・梶山ちひろ・藤井智子・水口正義	4. 巻 63
2. 論文標題 学校マネジメントの力量を形成するアクティブ・ラーニングとしてのアクション・リサーチに関する考察 (2)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 236-247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米沢崇・中井悠加	4. 巻 24
2. 論文標題 初任者用実践的指導力向上ハンドブックと指導教員用初任者支援ハンドブックの開発と運用(2) : 初任者教員と指導教員による運用を通じた成果と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 123-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/45466	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 由美子、米沢 崇、中井 悠加、宮里 智恵、木下 博義、大後戸 一樹、大里 剛、西本 正頼、松浦 武人、田中 節子、高橋 均、宮谷 真人	4. 巻 10
2. 論文標題 「学び続ける教員」の育成を目指した広島大学大学院教育学研究科教職開発専攻の取り組み 教育実践開発コースを中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 学習開発学研究	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曾余田浩史、梶山ちひろ、藤井智子	4. 巻 62
2. 論文標題 学校マネジメントの力量を形成するアクティブ・ラーニングとしてのアクション・リサーチに関する考察 (1)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国四国教育学会 教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 535-542
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沖野清治、佐々木哲夫、西本 正頼、大里 剛	4. 巻 62
2. 論文標題 教職大学院における実務家教員のFDに関する研究(2) ライフストーリー分析を通して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国四国教育学会 教育学研究紀要(CD-ROM版)	6. 最初と最後の頁 606-617
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件(うち招待講演 0件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 西本正頼・吉賀忠雄・木下博義・大後戸一樹・山崎茜
2. 発表標題 「学び続ける教員」を育成するアクティブ・ラーニング型教員研修プログラムの開発 - 効果を検証するための指標調査を中心に -
3. 学会等名 令和元年度日本教育大学協会研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木哲夫・西本正頼・吉賀忠雄・亀岡圭太
2. 発表標題 学び続ける教員の育成に関する一考察(3)-創造的な組織文化の醸成に向けて-
3. 学会等名 中国四国教育学会第71回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾余田浩史・金川舞貴子・大空秀文・長沼正義・佐々木優
2. 発表標題 学校マネジメントの力量を形成するアクティブ・ラーニングとしてのアクションリサーチに関する考察(4) 「スクールリーダー教育者」の専門性開発の視点から
3. 学会等名 中国四国教育学会第71回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木由美子・佐々木哲夫・西本正頼・吉賀忠雄・亀岡圭太・米沢崇
2. 発表標題 「学び続ける教員」を育成するアクティブ・ラーニング型教員研修に関する調査研究 教育委員会との連携した取り組みを中心に
3. 学会等名 日本教育大学協会研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木哲夫・西本正頼・吉賀忠雄・田中節子・亀岡圭太
2. 発表標題 学び続ける教員の育成に関する一考察(2)-育成を阻害する要因の克服に向けて-
3. 学会等名 中国四国教育学会第70回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 曾余田浩史・梶山ちひろ・長沼正義・大空秀文
2. 発表標題 学校マネジメントの力量を形成するアクティブ・ラーニングとしてのアクションリサーチに関する考察(3)
3. 学会等名 中国四国教育学会第70回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuto YOKOUCHI, Takashi YONEZAWA, Yuka NAKAI, Takashi HAYASHI
2. 発表標題 Effects of Teamwork Competency of Teachers on Their Educational Activities
3. 学会等名 ATEE Annual Conference 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋 均・米沢 崇・鈴木由美子・大後戸一樹・木下博義・大里 剛・中井悠加
2. 発表標題 「学び続ける教員」を育成するための教員研修に関する調査研究
3. 学会等名 日本教育大学協会研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 沖野清治・佐々木哲夫・西本正頼・大里剛
2. 発表標題 学び続ける教員の育成に関する一考察 - 育成を阻害する要因分析を通して -
3. 学会等名 中国四国教育学会大69回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 曾余田浩史・梶山ちひろ・藤井智子・水口正義
2. 発表標題 学校マネジメントの力量を形成するアクティブ・ラーニングとしてのアクションリサーチに関する考察(2)
3. 学会等名 中国四国教育学会大69回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takashi Yonezawa, Yuka Nakai
2. 発表標題 Innovations of Learning Environments for Novice Primary Teachers in Contemporary Japan: Towards Fostering Teachers as Continuous Learners
3. 学会等名 WERA Focal Meeting & HKERA International conference 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 曾余田浩史・木下博義・西本正頼・中山貴司・山木戸啓
2. 発表標題 アクションリサーチを基軸にした「探究・創造・協働の学び」の展開 - アクティブ・ラーニング型の探究を通して -
3. 学会等名 日本教職大学院協会研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木由美子、宮里智恵、大里剛、西本正頼、宮谷真人、松浦武人、大後戸一輝、木下博義、田中節子、高橋均、米沢崇、中井悠加
2. 発表標題 「学び続ける教員」の育成を目指した広島大学大学院教育学研究科教職開発専攻の取り組み(1) 教育実践開発コースを中心に
3. 学会等名 平成28年度日本教育大学協会研究集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 曾余田浩史、宮谷真人、林孝、沖野清治、佐々木哲夫、米沢崇
2. 発表標題 「学び続ける教員」の育成を目指した広島大学大学院教育学研究科教職開発専攻の取り組み(2) 学校マネジメントコースを中心に
3. 学会等名 平成28年度日本教育大学協会研究集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 曾余田浩史、梶山ちひろ、藤井智子
2. 発表標題 学校マネジメントの力量を形成するアクティブ・ラーニングとしてのアクション・リサーチに関する考察(1)
3. 学会等名 中国四国教育学会第68回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐々木哲夫、大里 剛
2. 発表標題 教職大学院における実務家教員のFDに関する研究(2) ライフヒストリー分析を通して
3. 学会等名 中国四国教育学会第68回大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 林孝・米沢崇・諏訪英広	4. 発行年 2019年
2. 出版社 あいり出版	5. 総ページ数 194
3. 書名 子どものために「ともに」歩む学校、「ともに」歩む教師を考える(学び続ける教師の学びと成長を支援する教師教育)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山崎 茜 (Yamasaki Akane) (00792277)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・講師 (15401)	
研究分担者	吉賀 忠雄 (Yoshiga Tadao) (00825870)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	木下 博義 (Kinoshita Hiroyoshi) (20556469)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	米沢 崇 (Yonezawa Takashi) (20569222)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	大後戸 一樹 (Osedo Kazuki) (20632821)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	林 孝 (Hayashi Takashi) (30144786)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・名誉教授 (15401)	
研究分担者	鈴木 由美子 (Suzuki Yumiko) (40206545)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	
研究分担者	高橋 均 (Takahashi Hitoshi) (40523535)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・講師 (15401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中井 悠加 (Nakai Yuka) (40710736)	島根県立大学・人間文化学部・講師 (25201)	
研究分担者	曾余田 浩史 (Soyoda Hirofumi) (60253043)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	
研究分担者	大久保 幸則 (Okubo Yukinori) (10880031)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	木佐木 太郎 (Kisaki Taro) (50881257)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	米谷 剛 (Yonetani Takashi) (00880254)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	佐々木 哲夫 (Sasaki Tetsuo) (50757284)	広島大学・教育学研究科・准教授 (15401)	
研究分担者	西本 正頼 (Nishimoto Masayori) (80773796)	広島大学・教育学研究科・准教授 (15401)	
研究分担者	沖野 清治 (Okino Seiji) (90582239)	広島大学・教育学研究科・特任教授 (15401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------